

# 無痛分娩 説明書

(2025年3月29日更新)

## 1. はじめに

無痛分娩とは、麻酔を使って陣痛の痛みを少なくする出産の方法です。以下に、当院における無痛分娩の方法や対応についてご説明します。

## 2. 当院の無痛分娩の目標

無痛分娩の最大の目標は、陣痛の痛みをできるだけ取り除くことです。

しかし、完全に痛みをとってしまうと陣痛がなくなり、分娩が止まってしまいます。

そのため、当院では完全に痛みをとるのではなく、「痛みがやわらぐ」ことを目標に考えています。その結果、お腹の張る感覚は残り、出産時は落ち着いてご自身でいきんで出産することが可能となります。

## 3. 無痛分娩が可能な条件

- ・ 正期産の方 (37週0日～41週6日)
- ・ 胎児推定体重が2500g以上の方
- ・ 胎児心拍数/波形が正常の方
- ・ 極度の肥満がない方
- ・ 流行性の感染症 (コロナ・インフルエンザなど) がない方
- ・ 同意書に記載されている疾患やアレルギーがない方

\* 早産期・低出生体重児・胎児心拍低下などの場合は、安全性の理由から無痛分娩は選択できません。

\* 脊椎に異常がある方、肥満の方は硬膜外麻酔が入らない場合があります。

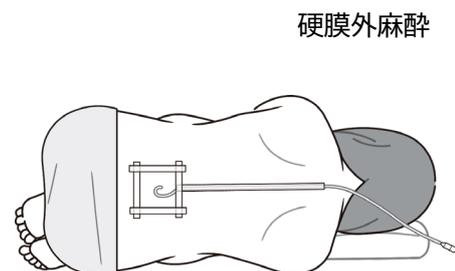
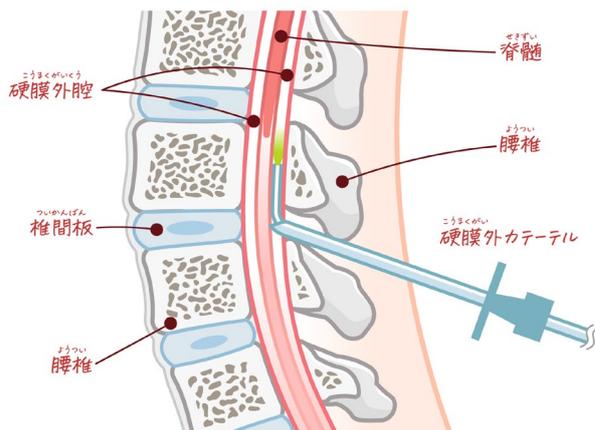
\* 当院では24時間体制で無痛分娩を行っております。しかし、分娩進行が非常に速い場合や、麻酔の体勢が取れない場合などは対応が困難となる場合もございますのでご了承ください。

## 4. 無痛分娩の麻酔について

陣痛の痛みは、子宮が収縮して子宮口が広がることや、骨盤を押し拡げて赤ちゃんが下降してくることによって起こります。陣痛の痛みは脊髄を通して脳へ伝えられますが、無痛分娩では**硬膜外麻酔**という麻酔によって痛みの伝達をブロックすることで、痛みをやわらげます。硬膜外麻酔は、脊髄の中にある硬膜外腔という部位に細いカテーテルを挿入し、出産まで持続的に麻酔薬を注入して麻酔を行う方法です。

硬膜外麻酔は局所麻酔の一種なので、お母さんの意識はあり、赤ちゃんに麻酔がかかることはありません。

硬膜外麻酔を入れるときは、ベッドの上に横向きになり、あごを引き、背骨を丸めて、腰を後ろに突き出す姿勢をとります。(横向きで体育座りをするイメージです)



## 5. 無痛分娩を開始/中断するタイミング

陣痛の回数、陣痛の強さ、分娩進行のスピード、子宮口の開き具合、お母さんの希望するタイミングなどを総合的に判断して、無痛分娩を開始するタイミングを決定します。

麻酔が効きすぎてしまい、お腹の張りが全くわからない場合や、足が全く動かせない場合などは、安全な分娩のために一時的に無痛分娩を中断することがあります。

## 6. 無痛分娩中の制限

歩行：麻酔による影響で足に力が入りにくくなり、歩行中に転倒する危険性があります。

無痛分娩開始後は原則としてベッド上から動くことはできません。

排泄：無痛分娩中は転倒する危険性があるためトイレに行くことができません。

また、麻酔の影響で尿意を感じにくくなるため、尿道に細い管を入れて導尿します。

分娩後は尿道カテーテルを入れる場合があります。

## 7. 無痛分娩のメリット

無痛分娩は、お母さんにも赤ちゃんにも多くのメリットがあります。

### a. お母さんの身体的ストレスと精神的ストレスの緩和

痛みはそれ自体が辛いだけでなく、血圧上昇や過呼吸など招くことがあります。分娩の痛みが軽くなることで、お母さんの身体的ストレスと精神的ストレスの緩和が期待できます。

### b. 子宮胎盤の血流改善

一般的に、お母さんが痛みを耐えているときは、子宮胎盤の血流が低下して赤ちゃんへの酸素供給量が減ると言われています。痛みを緩和することは、酸素供給量の改善とストレス改善に効果的です。

### c. 産科処置がしやすい

麻酔によりお母さんが診察や処置の痛みを感じにくくなるため、産科処置が速やかに行えます。

### d. 帝王切開への移行がしやすい

硬膜外麻酔での無痛分娩中に帝王切開への切り替えが必要になった場合、同じカテーテルを利用して帝王切開に切り替えが可能です。緊急時に速やかな対応が可能となります。

### e. 産後の体力の回復が早い

痛みによる体力の消耗やストレスが軽減されることで、産後の早期回復が可能です。

## 8. 無痛分娩のデメリット

無痛分娩の安全性は確率されていますが、いくつかのデメリットやリスクもあります。

### a. 分娩遷延

無痛分娩では痛みがやわらぎますが、同時に陣痛も弱まって分娩が遷延する（ゆっくりになる）ことが多くあります。その場合、分娩を進めるために子宮収縮薬を併用して陣痛を強めたり、一時的に無痛分娩を中断することがあります。

### b. 器械分娩（鉗子分娩・吸引分娩）の増加

無痛分娩では、足に力がうまく入らず、十分にいきめないことがあります。そのため、器械分娩（鉗子分娩・吸引分娩）で赤ちゃんの頭部を補助的に牽引する必要性が増加します。この場合、赤ちゃんの損傷のリスクや産道損傷のリスクが上昇します。帝王切開になる確率は普通分娩と変わりありません。

### c. 血圧低下

無痛分娩を開始した直後に、麻酔の影響でお母さんの血圧が低下することがあります。その場合、点滴を増やしたり、血圧を上げる薬を使用したりするなどの対応が必要となります。

d. 胎児心拍数/波形の悪化

無痛分娩を開始した直後に、赤ちゃんの心拍が低下することがあります。胎児心拍が回復しない場合は、緊急帝王切開を行う場合があります。

e. 麻酔薬の副作用

麻酔薬の合併症として最も多いのは頭痛（約1%）で、期間は数日程度です。その他の副作用として、かゆみや発熱などがあります。症状が強い場合は我慢せずにご相談ください。

f. 腰痛・下肢の神経障害

無痛分娩の影響で一時的な腰痛や下肢の神経障害を認める場合があります。ただし、通常の分娩でも同様の症状が起きる場合もあります。

g. 排尿障害

無痛分娩の影響で一時的な排尿障害を認めることがあります。多くの場合、症状は退院までに軽快します。

## 9. 極めてまれな重篤な合併症

以下の合併症は極めてまれですが、非常に重篤な合併症です。

いずれも初期の段階で適切な対応を行うことで、重篤になることを防止することができます。

a. 局所麻酔薬中毒

局所麻酔薬の過量投与や、血管への注入などが原因で起こります。初期症状として口のしびれや耳鳴りが起こります。血管内投与の場合は痙攣が起こることがあります。

b. 高位・全脊髄くも膜麻酔

硬膜外麻酔で使用するカテーテルがくも膜下に迷入することにより起こります。麻酔薬を使用後、急に足が動かなくなる、腕までしびれが広がる、息が苦しくなる、などの症状が起こります。

c. 硬膜外血腫・膿瘍

硬膜外血腫は、硬膜外麻酔で背中に針を刺すときやカテーテルを抜くときに、血のかたまりができて神経を圧迫することがあります。硬膜外膿瘍はカテーテルを入れたところに発生する膿のかたまりで、血腫と同様に神経を圧迫することがあります。いずれも感覚や運動を麻痺させるため、急激に悪化する下肢のしびれなどの症状が起こります。

d. アナフィラキシー

麻酔薬に対する重いアレルギー反応です。気道のむくみによる呼吸障害や湿疹などが起こります。

## 10. 当院の無痛分娩料金

当院では無痛分娩の費用として、通常分娩費用に加えて事前に5万円の予約金をお預かりさせていただいております。無痛分娩の実施の有無、無痛分娩を実施した時間帯などにより、退院時にご清算いたします。料金には無痛分娩に使用する特殊な針や麻酔薬の料金も全て含まれております。

## 11. 同意の撤回

同意をいただいた後、ご自身の希望によりいつでも同意を撤回することができます。同意を撤回しても不利益を受けることは一切ありません。

※東京都無痛分娩助成事業の申請時に記載する説明を受けた年月日は、本説明書の下記年月日をご記入ください。

助成手続きが完了するまで本説明書は保管をお願いいたします。

●●年 ●月 ●日

患者氏名：●●●●様

医療法人社団 五葉会 永井産婦人科病院

説明医師：●●●●

# 無痛分娩 同意書

医療法人社団五葉会 永井産婦人科病院 殿

<以下、チェックをお願いいたします>

背骨の病気を指摘されたことがない（重度の側弯症、腰椎ヘルニア、脊椎の変形、化膿性脊椎炎など）

心臓の病気を指摘されたことがない（大動脈弁狭窄症、閉塞性肥大型心筋症など）

神経の病気を指摘されたことがない（ALS、若年性パーキンソン病、進行性脊髄病変など）

血液凝固異常を指摘されたことがない、抗凝固療法中ではない

※妊娠後期に行う血液検査で凝固異常が見つかった場合、無痛分娩はできません

感染性の病気がない（化膿性脊椎炎、椎間板炎、髄膜炎など）

※当日に発熱、下痢、コロナ、インフルエンザなど流行性の感染性がある場合、無痛分娩はできません

局所麻酔薬アレルギーがない

私は、無痛分娩オンラインクラスを受講した（または個別に麻酔科医師からの説明を受けた）上で、説明書と同意書を受け取りました。無痛分娩に関わる診療行為（以下、診療行為）の内容を理解した上で、診療行為に同意します。

また、診療行為を行う上で必要な処置、および診療行為において予期されない状況が発生した場合にはそれに対処する緊急処置を受けることも併せて同意します。

●年●月●日

患者氏名 \_\_\_\_\_

配偶者、親族、または理解補助者（保護義務者・法廷代理人）

氏名 \_\_\_\_\_

本人との関係（ \_\_\_\_\_ ）

※次回の妊婦健診時に4枚目と5枚目を持参し、受付スタッフに提出してください。

その際、無痛分娩予約金5万円をお支払いください。

# 無痛分娩 同意書

医療法人社団五葉会 永井産婦人科病院 殿

<以下、チェックをお願いいたします>

背骨の病気を指摘されたことがない（重度の側弯症、腰椎ヘルニア、脊椎の変形、化膿性脊椎炎など）

心臓の病気を指摘されたことがない（大動脈弁狭窄症、閉塞性肥大型心筋症など）

神経の病気を指摘されたことがない（ALS、若年性パーキンソン病、進行性脊髄病変など）

血液凝固異常を指摘されたことがない、抗凝固療法中ではない

※妊娠後期に行う血液検査で凝固異常が見つかった場合、無痛分娩はできません

感染性の病気がない（化膿性脊椎炎、椎間板炎、髄膜炎など）

※当日に発熱、下痢、コロナ、インフルエンザなど流行性の感染性がある場合、無痛分娩はできません

局所麻酔薬アレルギーがない

私は、無痛分娩オンラインクラスを受講した（または個別に麻酔科医師からの説明を受けた）上で、説明書と同意書を受け取りました。無痛分娩に関わる診療行為（以下、診療行為）の内容を理解した上で、診療行為に同意します。

また、診療行為を行う上で必要な処置、および診療行為において予期されない状況が発生した場合にはそれに対処する緊急処置を受けることも併せて同意します。

●年●月●日

患者氏名 \_\_\_\_\_

配偶者、親族、または理解補助者（保護義務者・法廷代理人）

氏名 \_\_\_\_\_

本人との関係（ \_\_\_\_\_ ）

※次回の妊婦健診時に4枚目と5枚目を持参し、受付スタッフに提出してください。

その際、無痛分娩予約金5万円をお支払いください。